

鴨沂高校同窓会報

No.3 MAR. 1998 京都府立鴨沂高等学校同窓会 〒602 西陣郵便局 私書箱20号



疎水舟溜りの銅像

冷泉通り沿いの疎水夷川舟溜り池畔に、京都府第3代知事北垣國道の銅像があります。明治14年1月、横村正直の後任として就任以来、遷都でさびれた京都復興にすさまじい情熱を燃やし、活性化、近代化に取り組み、功績を残しています。京都市域は、明治3年から4年間に31.4%の人口減が起こる中で、他府県に見られない教育、殖産興業の施策を展開しました。

この銅像近くで学ばれた進取の気風溢れる同窓の皆様におかれましては、志を高く掲げ、生き生きとご活躍頂いていることと存じます。益々のご壮健をお祈りいたします。

同窓会の新しい歩み

1 昨年秋の総会で会則変更、新役員を選出などが行われ、同窓会は新体制で活動の活性化を目指して新しい歩みを始めました。会員皆様にお集まり頂く総会は3年毎の定期的開催が定められ、今回は同窓会発足50周年を記念して来年11月開催されます。担当理事の御努力により、同窓会名簿管理センターで会員名簿データベースが維持され、同期会やクラス会の名簿や宛名ラベル作製などの会員サービスも行うことになりました。同窓会の活動は、1期から本年卒業の新会員まですべての卒業期の多数の会員の支持によって始めて成功致します。総会の機会にクラスで集まるなど会員皆様の積極的参加を望みます。

一会員として

今年10月、母校は創立50周年を迎えます。50周年は何周年と言われる中でも特別な節目の年であり、誰しも先ず思うのは50周年を記念して行われるお祝い事でしょう。慶事の行事計画に我々卒業生も参加できる催しがあるのだろうか知りたく思います。この会報で母校の現状や同窓会の動きなどが会員に伝わり、それぞれの母校への想いが甦り、それが今に生かされることを願っています。

健在なり、50年の伝統

自由、平和、青春は「オオキ」のキーワードでした。昨年の卒業式に出席しました。茶髪に髷や、チャイナドレスの異様な仮装集団の入場で始まりました。いきなり歳の差を味わいました。だけど、厳しい社会の現実や受験戦争のなかで、青春を記念する一瞬の祭典に見えました。京都の町も大きく変わった様に、鴨沂も変わったと感じました。けれど、答辞を聞いていると、懐かしい「オオキ」を肌に触れました。再び、出席できる機会があれば、若者に負けないような仮装をしてみたいと思っています。

同窓会50周年記念総会の開催

鴨沂高校同窓会は、これまで長期に亘って総会の開催を始め、他の活動も行われておりませんでした。そこで有志の会員が集まって協議し、平成8年11月に総会の開催にこぎつきました。この総会において、新しく3期卒業の荒木会長が選出され、副会長、理事長以下41名の役員も決まりました。この時に会則も大幅に改正され、今後総会は3年毎に開催することになっております。次の平成11年の総会は、同窓会創設50周年の記念総会となりますので、多数の同窓の皆様方の参加をお願いするところです。

予告 鴨沂高等学校同窓会 50周年記念総会

来年 1999年・平成11年11月14日・日曜日
午後4時 都ホテル 京都 けあげ

会計報告 担当 木村 正 14期

平成9年12月31日現在、現金・預金の残高は下記のとおりです

手許現金	12,713円
通常預金(2口)	473,019円
定額貯金(3口)	10,419,474円
合計	10,905,206円

京都大学三回生のおりに、京都府立園部高校の校長だった岡田四郎先生（のちに鴨沂の校長となられた）の依頼で、園部高校の助教諭をかねており、京大卒業後同校教諭として勤務していたが、縁あって昭和二十五年（1950）の七月三十日付で鴨沂高校に赴任することとなった。

昭和二十八年の十月一日に、京都大学助教授に任じられて、鴨沂高校を去っているから、鴨沂にはおよそ十三年間勤務したことになる。昭和二十五年の九月から約半年の間、三年十一組の担任をしたが、教務部や生徒部、評議員などの仕事為主で、クラス担任の経験はわずかであった。

硬式野球部の部長をしていたころ、京都府の高校選抜で、平安高校に勝って近畿大会に出場したことや、生徒部長をつとめていた時に、生徒自治会の諸君と夜を徹して団交したこと、勤評闘争の時期に、高等学校教職員組合の執行委員に選ばれて苦労したことなど、かずかずの思い出が走馬燈のように浮かんでくる

鴨沂高校の学風には、旧制高校のよき伝統がうけつがれていた。先生方も個性豊かな学識のあるメンバーが多数であった。自由と民主主義、そして人権の重さと深さを生徒の皆さんと一緒に学んだその場が、私にとっての鴨沂高校であった。学問と人生の青春が重なる。（京都大学名誉教授）

鴨沂レターズ

期

3

仲谷 喬

今年8月に毎年恒例の3期会が開催される。卒業直後には考えてもいなかったこの会は年と共に盛会となってきた。この会が核となって在学中は話をした事も無かった者同志が「旅行会」や月一度の「飲み会」、年2回の「ゴルフ会」などに発展し、親しく付き合うようになってきた。最近卒業された若い同窓生達も同じような経過をたどって、かけがえのない同期会に進化することをお奨めしたい

29

原 裕一郎

私以外に同期の人が来ていなかったのは残念ですが、楽しい時を過ごすことができました。ありがとうございました。同期会総会に出席

36

川口 剛

13年ぶりに級友と会うことができ、感無量でした。30を過ぎると結婚して子供が2人もいるような人もいました。高校時代は子供っぽかったのに、みんな変わったね。それに比べて僕はまだ独身。新居は買ったけどいい人にめぐり会うことがないままに。だから花嫁募集中。今年は大学院にも進学します。同期会総会に出席

26

神川加代子

中堅やベテランと呼ばれる世代になり、話題はもはや夢や恋ではなく、健康の事。学生時代を懐古する齢になったかと、複雑な気持ちで出席した同窓会総会でしたが、会場で驚き！私達は最年少グループでした。懐しい恩師ともお会い出来ました。感動を忘れず、前向きな人生にしたいと思うこの頃です

47

鈴木 穂人

先日、大学の友人と久しぶりに学校を訪れました。休日のせいか、校内は静寂に包まれ僕達の足音だけが響いていました。当時は広いと感じていた講堂、枕代わりになっていた机。今の僕には、どれもが小さく感じました。少し寂しい気もしましたが、どこか嬉しさがこみ上げてくる休日の母校でした。

11

戸川 隆博

今年9月13日(日)都ホテルにて同期会総会を開きます。東京では毎年同期の集いを、また京都でも火曜会と称し第3次曜日にゴルフ会と同期生のお店で団らんの会をひらいています。新しい友人も生まれます。まだ少人数ですが子供達も成人し、がむしゃら人生からおだやか人生へシフトダウンの頃、いろいろ選択肢をつくって生活リズムの中の香辛料にいかが。

同窓会のこんな姿はどうだろうか。本部と支部、総会と支部会に分けると同期会が支部会、全体会が総会にあたる。支部が活発ならば本部も活発になる。同期会開催の協力に本部は力をおしまないだろうし休眠中の支部は動きだしてほしい。いつの年にか総会のある同月同日に各所で同期会が催され、その流れが時差開催の総会へくり出せば盛況になる。手始めに明年同期会を何期か計画されませんか

5

北村 雅男

5期卒業の同窓会は、鴨沂5期会の名称で毎年秋に京都で開催されており、毎回100人以上の出席があります。関東地区は、東京鴨沂5期会の名称で毎年東京で開催され、毎月1回の会もあり京都、東京共に活発に活動しております。同窓会は話題に共通性があり、何の利害関係もなく自由に話せ、新しい趣味や、友人もできる大変楽しい会です。今まで出席されたことのない方々もぜひ御出席ください。

22

杉足 泰彦

悪友、喧嘩友達、あこがれの君など懐かしい仲間と会い、今では想像を絶する容姿とその人生にふれることができる同窓会は、素晴らしいものです。そこは、鴨沂高校で培った「自由と民主的な」学風をどの様に生かしてきたかや個々の仕事、恋愛、家族の事、趣味など気楽に聞き話せる良い機会の場でもあり、是非一度企画参加し、精神的な充実と楽しみを満喫しましょう。（同窓会への誘い）

8

猪熊 兼勝

見知らぬ上地で、偶然知り合った人が、京都出身だと聞くと懐かしくなり、鴨沂高校出身と判ると何十年來の旧知の様になるから不思議なものだ。「オーキ」は秘密結社の暗号の様なもので、他府県の人にとっては、不可解な響きに聞こえるらしい。最も京都らしい気位の中から産声をあげて半世紀、激動の日本の歴史は鴨沂の歴史でもあった。千枚漬や、すぐきのように、京都の風上だからこそ、熟成できた校風である。京都人であることを誇りに思うならば、青春の思い出を語りあえる場所を大切にしたい。



私の鴨沂高校

田中 譲 5期

私の鴨沂高校時代は昭和25年から28年に至る時期で、経済社会は昭和25年6月に朝鮮動乱が勃発してその特需景気をレバレッジとして日本の経済が立ち直るなど、戦後の復興期であった。

わが鴨沂も教室不足のため授業が終わるたびに鞆を持って民族大移動したものである。北運のプールも未だ米軍に接収されていたが三年生になってボイラーをたいて数回泳いだ。ウナギの寝床の運動場もなつかしい。しかし、運動会の「揚げば尊し」のハレードには若者としての共感があった。

あれは戦時中の旧制と新制の学制が意識のなかに混在していた時期であったのであろう。

その後、私は大学卒業後ただちに銀行に就職して二年前その役員を退任するまで京都で生活する事ができ母校を外からみてきた。今はクレジットカード会社の社長をするかたはら自著作を書店で世間に問うたり同志社大学、同大学院でベンチャービジネスやそのファイナンス論を講義している身である。

この間の長い人生では素晴らしい人々との数多くの出会いがあったが、同級生は別として思いがけない同窓生との出会いもあった。その中の一人が作家、評論家の江坂彰氏であって、雑誌プレジデントが「京都を文明論的な視点でみて京都を考えよう」と言う編集をした時に御一緒する事があった。

江坂氏が思いがけず鴨沂の後輩と知りたいたへん嬉しくおもった。年齢もあまり差がなく、ともに鴨沂で同時代を生きたと言う共感が江坂氏との出会いにあった。

フランスから見た日本の風土

中村貴志 18期

昨年の秋は、「フランスにおける日本年」に招かれて、久しぶりに渡仏しました。マルセイユの大学で建築論の講演を行なった後、パリの「日仏建築サミット」に出席しました。マルセイユの講演は意外にも大盛況で、内外から500人以上の参加者があり、おまけに、客員名誉教授の称号まで賜りました。パリの会議も、活発な議論や親密な晩餐会のうちに、成功を収めることができました。

それにつけても、身にしみて思うのは、フランスと日本の間に見られる共通性と差異性です。両国の文化は、いずれも長い伝統に育まれています。しかし、象徴的にみれば、フランスは〈物事をハッキリ語る文化〉、日本は〈物事をアイマイにしか語らない文化〉と言えます。明晰な言語に価値をおくフランスと、曖昧な以心伝心を重く視る日本とは、文化のあらゆる面で鮮やかな対照を示しています。言語の文法構造から諸々の哲学思想、あるいは、社会の組織原理から建築空間の現象にいたるまで、その差異は、精神的にも視覚的にも明らかに感得されます。ヴェルサイユの宮廷と桂離宮の庭園を比べれば、そのことが直観的に理解されるでしょう。

このような差異は、しかし、けっして、「対立的」なものではなく、むしろ、相互に「補完的」なものと考えられます。いわゆる個人主義と集団主義にも、それぞれに長所と短所が認められます。人間の多様な文化は、本来、そのつど固有の価値を發揮しながら、将来の世界に貢献するべきものです。われわれは、他者を識ることによって、いっそうよく自己を知ることができます。建築の営為は人間生活の全域にかかわりますが、この領域でも、文化の国際的な交流が不可欠であると思います。

仕事の周辺—ヨーロッパのお菓子のお話

安田俱子 3期

ヨーロッパのケーキを研究、生徒さん達に伝えて四半世紀以上がたちました。お菓子といえばフランス。今でこそ、世界をリードするフランスのお菓子も1530年、イタリア、フィレンツェのカトリーヌ・メジチが皇太子アンリ三世に嫁ぐ際に伴った菓子職人からはじまりました。アイスクリーム、卵白を泡立てたメレンゲ、シュークリームなどなど。フランスは世界有数の農業国です。ケーキ作りに最適の粉や良質の乳製品が取れますし、くだものの種類も豊富です。その上、一年間の宗教行事や伝統に基づいたお菓子も多く、例えば、「サントノーレ」。5月16日、お菓子の守護神、聖オノーレのために焼くお菓子です。皆様ご存じのクリスマスの「ブッシュ・ド・ノエル」。このケーキの由来は前の年の丸太の燃え残り火をつけた、その灰が雷や火事よけのまじないになるというリトアニアの神話から来るもので、その灰は火傷の薬としても使われています。フランス人のエスプリの利いたネーミングを。シュー生地を小さく油で揚げて粉砂糖をまぶしたお菓子が「ペ・ド・ノンヌ」尼さんのおなら。油の中で生地がふわーとふくれる様子から来たようですが、どうして尼さんなのでしょうかね？イタリア、イギリス、ベルギー、ドイツ、スペイン、オランダ、北欧、他にも楽しいお話はいっぱいありますが、私が言いたいのは「ケーキは決して女性と子供の好物ではない」のです。洋風料理には砂糖を使いません。それで、どうしても食後に甘い物が欲しくなるのです。甘味が不足すると情緒不安定になると、科学的にも立証されています。男性の皆様も「お菓子なんか男の食べ物じゃない！」など格好つけずに大いに甘いものの美味しさにめざめて頂きたいものです。

昨年11月22日に8期生の同窓会を京都ホテルで開催した。還暦を迎えた200名以上が参集したが、60年の半生を回顧して感慨は様々であった。小学校2年で終戦を体験し、戦後の貧困、朝鮮動乱、復興、経済成長・発展、国際化、昭和の終結、バブル経済の崩壊と阪神大震災など私たちの人生と進路に大きく影響した歴史的な事件に各自それぞれに対応してきた思い出が語られた。

戦後、我が国は経済・技術立国を目指したが、その中で私たちの生活は絶えず豊かになってきて、多くの人が文明人としての生活を享受できたことには異論はなからう。

一方、将来を考えると、これで良かったのか。昨今の不況による老後の生活不安、環境問題、資源とエネルギーの枯渇を危惧する人もいた。これらは、我々の世代そのものが経済発展のための歯車として、いたずらに大量消費による浪費的な生活態度を培ってきたことに起因するとの反省もあった。

ここでいま忘れてはならないのは、次世代への持続的な発展のために、今後我々は何をなすべきかを考えて実行することであろう。それには、省エネルギー、省資源、リサイクルによる生活習慣に立ち返ることは言うまでもなく、それを支えるインフラストラクチャーを確立できるよう働きかけることが必要である。また、産業革命以後の機械化文明がもたらした物質文明の功罪を検証し、より文化的な価値観による経済・技術体系を構築する時に来ている。このような目的のためには、まず伝統文化を誇る京都で学んだ我々が率先して、先人が築いてきた文化遺産を継承しつつ、生態系・環境に適合した生活様式の確立に取り組むべきではないかと考えるのは私だけではなかった。

同窓会員名簿の集中管理について

従来の同窓会員名簿は、出版業者に依頼して全会員一括の名簿を発行しておりましたが、変更等のメンテが5年毎になるとか、必要以外の名簿等も購入する事になり、かなり高価につくという不都合もありました。そこで、同窓会で会員名簿をコンピュータで一括管理する業務を始めました。これにより必要な学年の分のみ原稿をお渡しして、これをコピーして頂ければ、かなり安価に手に入れることができます。また郵送ラベルも実費で造ることができますので、クラス会等の連絡用にもご利用いただけます。希望される方は、所定の用紙を提出して頂ければ下記料金で発行いたします。但し会員以外からの請求や個人情報の問い合わせについてはお断りします。用紙請求や問い合わせは次へお願いします。

〈名簿管理センター・井口 悟 気付〉

〒601-8383 京都市南区吉祥院石原長田町1-1 桂川ハイツ4-501

電話・FAX. 075-671-1067 e-MAIL BZZ25261@niftyserve.or.jp

会員サービス実費料金 ●会員名簿＝記載事項は会員番号、氏名、旧姓、郵便番号、住所、電話番号でA4版縦の横書きとします。①卒業期別名簿1件につき10,000円(校正2回) ②クラス別名簿1件につき4,000円(校正1回) ③都道府県別在住者名簿1頁につき1,000円(校正1回) ④フロッピーディスク様式は上記に6,000円を加算、●宛名ラベル＝記載事項は会員番号、氏名、郵便番号、住所で、不明者、物故者は除きます。1名分10円。

1996～98年度役員

1期	木寺 州介	10期	富田 真人
1期	辻 知之	10期	西尾 斎
1期	安田 朝子	11期	戸川 隆博
3期	荒木不二洋	11期	藤田 陽三
3期	稲田 昌子	11期	柳田 稔
3期	仲谷 喬	12期	小嵐 正道
3期	安田 俱子	13期	河合 勝彦
4期	今井 章夫	13期	安井 冽
4期	藤野 英雄	14期	木村 正
5期	北村 雅男	14期	福留 彰彦
5期	末川千穂子	14期	村田 博史
5期	田中 清子	15期	熊谷 勝
6期	井上 敦夫	15期	近藤 善彦
6期	山本 盛一	15期	谷口明日香
7期	谷水三喜男	16期	佐川 公也
7期	長谷川弘次	17期	永野 福夫
7期	山本 泰彦	19期	青木 栄子
8期	猪熊 兼勝	19期	井口 悟
8期	福島 玄	19期	鈴木 正穂
9期	小泉 武	22期	杉足 泰彦
9期	高橋 莞子	47期	鈴木 穂人

同窓会への通信宛先 〒602 西陣郵便局私書箱20号
京都府立鴨沂高等学校同窓会